

# 2022 年度活動計画

2022 年6月 12 日

特定非営利活動法人 イカオ・アコ

## 目 次

- 1 2022 年度活動計画
- 2 2022 年度予算案
- 3 2022 年度役員

## 1. 2022 年度活動計画

### ① スタディツアー事業とアンテナショップ MIDORI の営業

コロナ禍により、スタディツアーを延期する。MIDORI の営業再開も 2022 年には見込めない。

### ② 日本 NGO 連携無償資金協力

2020 年度より「農家の生計向上を目指す高品質イチゴの観光農園の普及事業」をシライ市パタグ村で実施している。2022 年度は 3 年次となる。ビニールハウス建設のほか、イチゴを活用した Café を建設する。この Cafe で将来の MIDORI のコンセプトを確立したい。

### ③ イオン環境財団

イオン環境財団の助成事業で、「フィリピン・ネグロス島でのマングローブの植林と環境教育 (第 3 年次)」を実施する。学校での環境教育部分の実施は不透明であるため、パンフレットを作成し、訪問客等に事業の啓発を行う。

### ④ 安全な水の供給プロジェクト

ボホールにて地域・学校に雨水を貯留・浄水して提供するプロジェクトを進める。三井物産、正規水ハウスの助成金が昨年度で終了したため、N 連へこのテーマで申請を行う。

### ⑤ 地球環境日本基金

違法伐採による炭焼きの現状調査と環境と調和した炭焼きのあり方に関する調査である。パタグ村で 20 家族程度と想定していたが、50 家族以上が炭焼きを生業としている。

### ⑥ 地球環境基金

海洋プラ問題の緩和につながる、ボホールの離島におけるコミュニティベースの 3R とゴミ減量化を実践する 3 年間のプロジェクトである。

### ⑦ 日中友好会館

中国の植林から東南アジアへの拡大を指向する団体からの助成金である。ボホールでマングローブの植林を実施する。

### ⑧ 企業連携

#### 8.1 ニチバン株式会社

「ニチバン巻心 ECO プロジェクト」を本年度も継続している。2019 年度に実施した社内研修の現地受け入れは延期となる。

#### 8.2 リコー株式会社

以前、共同で実施した植林活動が縁で今年度も 56,000 本のマングローブ植林の寄付をいただく予定である。

#### 8.3 アストモス株式会社

商品連動型ではなく、CSR に衣替えして、実施予定である。

### ⑨ パガパットフェスティバル

規模を縮小してパガパット祭りを今年度、再開する。

### ⑩ 国内活動

ー国内事務局 3 名体制

ーPanasonic 事業で明らかになった組織基盤の脆弱性を引き続き克服。国内体制の強化、収入構造の多様化など、解決できなかった課題に挑戦。

		イカオ・アコの中期ビジョン改訂版(案)			2022年～24年	
事業名	新林事業	農業の6次産業化	安全な水供給事業	ソーシャルビジネス事業	国内活動	組織運営
これまでの実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マングローブ・上流部併せて186万本の植樹、参加者は毎年約3,000人</li> <li>・パサリン、ボカナ、ピグトリアスにエコパーク造成</li> <li>・パサリンの住民団体が自立しつつある</li> <li>・日本の大企業がCSRとしてイカオ・アコの活動を支援</li> <li>・山間部では植林したコーヒー・カカオの収穫・商品化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥料・イチゴ栽培の専門家の派遣</li> <li>・苗会社、肥料会社との連携</li> <li>・ボホールに大規模液肥施設の建設（JICA草の根技術協力事業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本水大賞受賞</li> <li>・バリダアンとシバトにランパンブを設置し、半校や地域に水を供給</li> <li>・ボホールで4地域に雨水を活用した供給システムを建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーガニックカフェ経営7年間</li> <li>・フェアトレード12年間</li> <li>・国際協力研修センター運営8年間</li> <li>・クラウドファンディングの経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松丘高校などで特別授業</li> <li>・ニチパン国内植林に参加</li> <li>・各種研修に参加しネットワーキング構築</li> <li>・ESDコンテスト、七夕燈籠コンテスト等のイベントを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本林業事務所を登録（名古屋NGOセンターと同居し、情報共有などのメリットを追求）</li> <li>・Panasonic助成金を受け組織基盤強化に取り組む</li> <li>・事務局職員を採用</li> <li>・会員管理ソフトを導入</li> </ul>
中期ビジョン	植林参加の目的を多様化する	自立的な農業のモデルを作る	安全な水を地域・学校に届ける	ソーシャルビジネスを独立採算制にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsへの取り組みが多くの人々に知られる</li> <li>・参加型イベントが不定期に行われる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きやすい職場環境が整い、活動の支援ができる</li> <li>・効果的な会員制度が完成</li> </ul>
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植林事業の見える化の取り組み（植林木数・映像・画像・ツールなど）</li> <li>・エコパークを活用したエコツーリズムの再構築</li> <li>・植林ビジネスの展開（記念植樹・マングローブフェスティバル・オーナー制度）</li> <li>・パガパットフェスティバルなどの植林イベントを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家現地派遣</li> <li>・現地スタッフの本邦研修</li> <li>・イチゴの栽培をネグロスの高地に拡散</li> <li>・イチゴ農園の観光化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル地区に給水設備を設置しモニタリングを実施</li> <li>・省エネルギー、省資源の利水技術をマスター</li> <li>・他地域に展開できる準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスの専門家の派遣</li> <li>・ビジネスパートナー（現地スタッフ）の雇用</li> <li>・カフェ、研修センターの再建（事務所を含む）</li> <li>・研修センターを半生だけでなく、企業研修の受け皿に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不定期に会員同士が交流できる場の設置</li> <li>・広報に関して①SNSの強化②HPの改訂③広告の活用</li> <li>・フェアトレードグッズを発売し、国内で販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員制度の構築（既存の個人情報利用、効果的な会員特典、中継生向けの会員制度、入金確認がスムーズにできる管理システムの導入など）</li> <li>・人事制度・就業規則・研修制度などの整備</li> <li>・国内インターン・ボランティア・プロボノの受け入れ</li> <li>・総会・理事会の定期開催</li> </ul>
3年目標と成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間植林参加者数が、日本人100人、フィリピン人2,000人</li> <li>・植林に関するビジネス・事業が立ち上がる</li> <li>・エコパークの建設、そのための資金の獲得（橋・タワー、看板など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチゴの生産性を日本水準に接近（1.5t/10a）</li> <li>・観光化促進のため、加工場とカフェの建設</li> <li>・温室18棟建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山間部・島しょ部に合った給水技術を習得</li> <li>・1年に1校以上のペースで半校に安全な水を届ける</li> <li>・上記のノウハウを持ったコーディネータを2名以上育成</li> <li>・行政、住民が参考にできるマニュアルの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーガニックカフェの赤字が解消</li> <li>・自前の研修センターの建物の建設のため、土地を取得し、コンベ方式で設計計画を決定</li> <li>・日本企業の研修施設としてセンターの活用を計画する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内で定期的に活動</li> <li>・会員同士の顔の見える関係</li> <li>・HPの改訂の実施</li> <li>・HPのアクセス数の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事制度・就業規則の整備</li> <li>・国内外でスタッフを12人雇用</li> <li>・総会・理事会の定期的な開催</li> <li>・有料会員数が30人</li> <li>・年間の個人寄付と会費収入が合計18万円</li> </ul>

## 2. 2022年度予算案

2022年度「特定非営利活動・その他事業に係る事業会計」予算書

特定非営利活動法人イカオ・アロ  
単位:円

科目	予算額	備考
<b>(資金収支の部)</b>		
<b>I 経常収入の部</b>		
1 会費・入金収入	150,000	
1) 入会金収入	0	
2) 正会員会費収入	150,000	
3) 賛助会員会費収入	0	
2 事業収入	0	
1) フェアトレード事業	0	
2) ロゴグッズ販売事業	0	
3) その他	0	
3 補助金等収入	31,000,000	
1) 民間補助金収入	8,000,000	地球環境基金、イオン環境財団他
2) 受託収入	23,000,000	外務省
4 寄付金収入	7,500,000	
1) 寄付金収入	7,500,000	ニチバン、リコー、個人など
2) 募金収入	0	
5 雑収入	0	
1) 受取利息	0	
2) 雑収入	0	
経常収入合計	38,650,000	
<b>II 経常支出の部</b>		
1 事業費	30,000,000	
1) フェアトレード事業	0	
2) ロゴグッズ販売事業	0	
3) その他	30,000,000	
2 管理費	7,900,000	
1) 役員報酬	0	
2) 給料手当	4,000,000	
3) 臨時雇賃金	1,000,000	現地労働者の雇用
4) 福利厚生費	500,000	
5) 会議費	100,000	現地での講習会開催など
6) 旅費交通費	200,000	国内出張費
7) 通信運搬費	150,000	海外宅配便、国内送料
8) 消耗什器備品費	100,000	
9) 消耗品費	100,000	
10) 印刷製本費	50,000	バナーなど印刷
11) 光熱水料	150,000	現地の事務所
12) 賃借料	600,000	事務所、車やボートのレンタル
13) 車両関係費	300,000	現地用車両
14) 諸謝金	100,000	
15) 租税公課	250,000	
16) 雑費	300,000	
3 予備費	0	
1) 予備費	0	
経常支出合計	37,900,000	
経常収支差額	750,000	
<b>III その他資金収入の部</b>		
1 固定資産売却収入	0	
1) 什器備品売却収入	0	
2 繰入金収入	0	
1) 繰入金収入	0	
3 借入金収入	0	
1) 長期借入金収入	0	
その他資金収入合計	0	
<b>IV その他資金支出の部</b>		
1 固定資産取得支出	0	
1) 車両運搬具購入支出	0	
2) 電話加入権購入支出	0	
2 借入金返済支出	0	
1) 長期借入金返済支出	0	
その他資金支出合計	0	
当期収支差額	750,000	
前期繰越収支差額	20,585,676	
次期繰越収支差額	21,335,676	
<b>(正味財産増減の部)</b>		
<b>V 正味財産増加の部</b>		
1 資産増加額	750,000	
1) 当期収支差額	750,000	
2) 車両運搬具購入額	0	
3) 電話加入権購入額	0	
2 負債減少額	0	
1) 長期借入金返済額	0	
<b>VI 正味財産減少の部</b>		
1 資産減少額	0	
1) 什器備品売却額	0	
2) 車両運搬具減価償却額	0	
3) 什器備品減価償却額	0	
2 負債増加額	0	
1) 長期借入金増加額	0	
当期正味財産増加額	750,000	
前期繰越正味財産額	20,585,676	
当期正味財産合計	21,335,676	

### 3. 2022 年度役員

(令和 4 年 6 月 12 日現在)

特定非営利活動法人イカオ・アコ

役名	フリガナ 氏名	報酬の有無
理事	ゴトウ ヨリヒサ 後藤 順久	無
理事	スズムラ マサノリ 鈴木 正典	無
理事	ヒラマツ モトオ 平松 元夫	無
理事	フタカド トモミ 二角 智美	無
監事	クノ アキコ 久野 晃子	無